

『まるごと』文字コース：入門コースから初級1コースへのかけはし

カルメンシータ ケオラニ C ビスカラ
マニラ日本文化センター

1. 実践コースの基本情報

レベル	A1
実施コース名	『まるごと』文字コース
実施日時または期間	2013年2月21日～3月26日
授業時間	90分@1コマ、2回×4週＝8回
授業担当講師	報告者、日本語母語話者教師1名
1クラスの学習者数	14人
学習者の属性	性別：男性6人 女性8人 年齢：20代6人、30代7人、40代1人 職業：大学生1人、会社員12人、主婦1人
使用教材	『まるごと 入門』「りかい」編一部 「まるごと 入門 A1 もじ練習帳」(自主制作教材) 「まるごと 入門 A1 漢字帳」(自主制作教材) フラッシュカードなど(自主制作教材) 『Hiragana in 48 minutes』 「まるごとプラス」

2. 実践について

2.1 実践の背景

国際交流基金マニラ日本文化センター（以下、JFM）は開設以来、民間の日本語教育機関と競合しないように、学習者のための日本語講座は開講を控え、日本語教師のための教師研修コースを提供してきた。しかし、2012年『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）の開発に伴い、JFMは民間教育機関が提供している文法中心の読み書きコースとは異なるコースを提供するという方針で、初めて一般の学習者向け日本語コースを開講した。このコースでは民間日本語教育機関との差別化を図るために、あえて文字学習と文法学習は行わず、試験のための学習でもない、「日本に興味があるからちょっと日本語を話してみたい」「本格的に文字や文法を学ぶのは気が重い」「ハードルの高い文字学習を省略して会話だけ学びたい」という学習者をターゲットとした。このように、あくまでも楽しく、気軽に日本語や日本文化を学ぶことを目的とし、ローマ字表記を用いた『まるごと 入門 A1』「かつどう」編のみを使用した入門コースを、2012年4月に開始した。

開講にあたり、初年度の2012年は学習者の集まる時間帯を調査するため、表1のように様々な時間帯に3回コースを開講した。また、コースのオリエンテーション時、学習者には気軽な勉強を狙いとして入門コースではひらがなやカタカナ、漢字の学習はせず、ローマ字で学習するということを伝えた。さらに、次の初級1レベルの教科書にはローマ字表記がなく、初級1コースに進むには入門コース修了時点でひらがなとカタカナの60%の文字の読み方を習得することが求められているということも伝えた。

しかしながら、文字学習は完全に自主学習となることから、自律学習が苦手、自分で勉強しても一人で教科書を読める自信がないという学習者もいたのが実情である。

表1 JFM『まるごと』講座スケジュール



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2012-2013	入門(火・木)						入門前半集中	入門(土)					文字
2013-2014	入門(土)					入門(火・木)				文字	初級1(火・木)		
	入門(火・木)			文字		初級1(火・木)					初級2前半		
2014-2015	初級1(火・木)		初級2前半(火・木)										
	初級2前半(火)												

「かつどう」編を使用した入門コースは、話好きで、あまり細かいことにこだわらないフィリピン人に好意的に受け入れられ、多くの受講生が日本語の文字を書けないのにもかかわらず進級を望んだ。興味深いことに、入門コースが進むにつれて最初は片言の日本語が話せればよいと思っていた学習者のほとんどが、「もう少し日本語の学習を続けたい」「文字も書けるようになりたい」と意欲を見せるようになっていた。

「かつどう」編のみの入門コースは、文字学習が抜け落ちているため、その部分を埋める学習が必要になる。しかし、前述のような学習者の自律学習に頼るだけでは、初級コースの受講には不安が残った。そこで、まず、クラス全体で『まるごと 入門』の文字やことばを練習したうえでの自律学習なら可能かもしれないと考えた。

こうして、入門コースで獲得した学習者をスムーズに初級1コースへ導くために、入門コースから初級1コースへの「かけはし」として『まるごと 入門A1』の文字とことばに焦点を当てたJFM独自の『まるごと』文字コース(以下、「文字コース」)を開講することにし、コースで使用する「文字コース」テキストなど教材の開発を進めてきた。

2.2 実践内容

表1のように、2012年4月から2014年3月までの二年間で「文字コース」を三回実施した。

(1) 受講生数

2013年2月から3月にかけて開講した第一回文字コースには、14名が参加した。入門コースに参加し、この文字コースへと進んだものが7名、加えて他の日本語教育機関で勉強した新規の受講生が7名の、合計14名であった。『まるごと』入門コース既習者は初級1コースへの進級、新規の受講生は文字学習と『まるごと』講座への興味を文字コース受講の理由としてあげた。

表 2.1 入門→文字→初級1への履修者数

	2012-13	2013-14	計
入門コース修了者	39	43	82
「文字コース」申込者	7	18	25
「初級1コース」申込者	2	13	15

表 2.2 外部→文字→初級1への履修者数

	2012-13	2013-14	計
外部からの「文字コース」申込者	7	1	8
「初級1コース」申込者	4	1	5

表 2.1、2.2 に2年間の「文字コース」履修者数をまとめた。表 2.1 のように、まるごと入門コース修了者の総計は82名、そのうち文字コースに進んだ者が25名、さらに初級1に進んだ学生は15名となっている。文字コース修了者25名のうち、初級1に進まなかった10名は継続学習を希望したが、スケジュールの都合が合わず継続を断念した。注目すべきことは、表 2.2 のように、外部から「文字コース」に参加した新規受講生8名のうち5名が、初級1コースに参加したということである。つまり、「文字コース」が『まるごと』講座の新規受講生獲得につながる重要な切っ掛けとなることが分かった。

(2) コーススケジュール

ここでは2013年の2月21日から3月26日に行った「文字コース」のパイロットコースの事例を取り上げる。

表 3 「文字コース」スケジュール

	トピック
1日目	ひらがな①：あ～の
2日目	ひらがな②：は～ん
3日目	カタカナ
4日目	特殊音
5日目	入門「かつどう」編：第3課～8課
6日目	入門「かつどう」編：第9課～10課
7日目	入門「かつどう」編：第11課～12課
8日目	入門「かつどう」編：第13課～18課・テスト

表3から分かるように、最初の4日はひらがなとカタカナの文字学習が中心となっている。1日目と2日目のひらがなの学習内容は、基本的にまず「Hiragana in 48 minutes」の教材を使って形を導入し、次

に書き順を確認し、続いてひらがなカードで発音練習をしたり、文字練習帳で読み書きの練習や発音練習などをした。

3日目のカタカナ学習では授業で書き順を取り上げないため、文字練習帳で予習してくることを条件とした。授業では、カタカナカードを使って形を覚えさせた後、うちで練習した際に書くのが難しかったというカタカナをいくつか取り上げ、それを板書しながら全体で確認したり、カタカナのこぼのディクテーション練習を行った。

4日目は特殊音、5日目から8日目は『まるごと 入門』の漢字と各課で勉強したことばや表現を色々な練習を使って復習した。

8日目はテストがあるため、授業時間を2時間半にして筆記テストや読むテストを最後の45分で行った。

(3) 「文字コース」の教材

「文字コース」では、教材として文字練習帳と漢字帳を使用した。

① 文字練習帳

基本的に書き練習「かきましよう」や発音練習「ひらがなをよみましよう」などは JFM がオリジナルに作成したものである。他の練習、例えば、「かんじをよみましよう」、ディクテーション「きいてえらびましよう」や「どれがたさいですか」は『まるごと 入門』『りかい』編と「まるごとプラス」(国際交流基金関西国際センター開発)のウェブサイトから抜粋した。

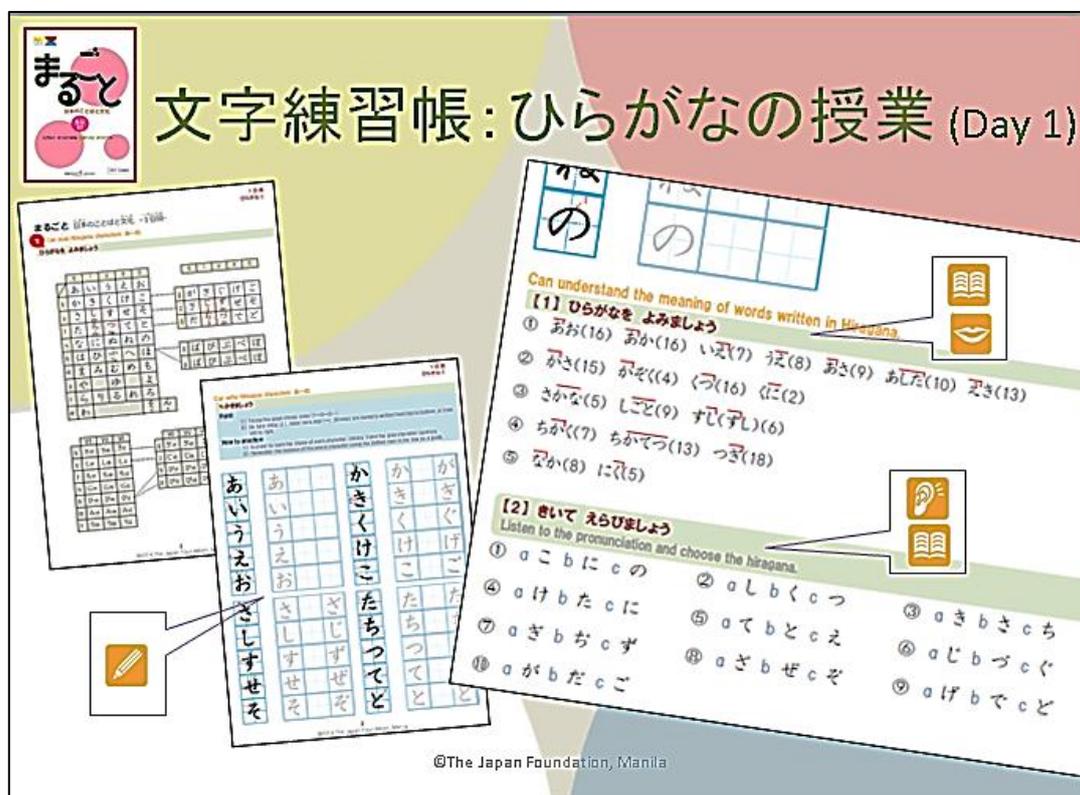


図1 文字練習帳 (ひらがな学習部分) 1



図2 文字練習帳 (ひらがな学習部分) 2

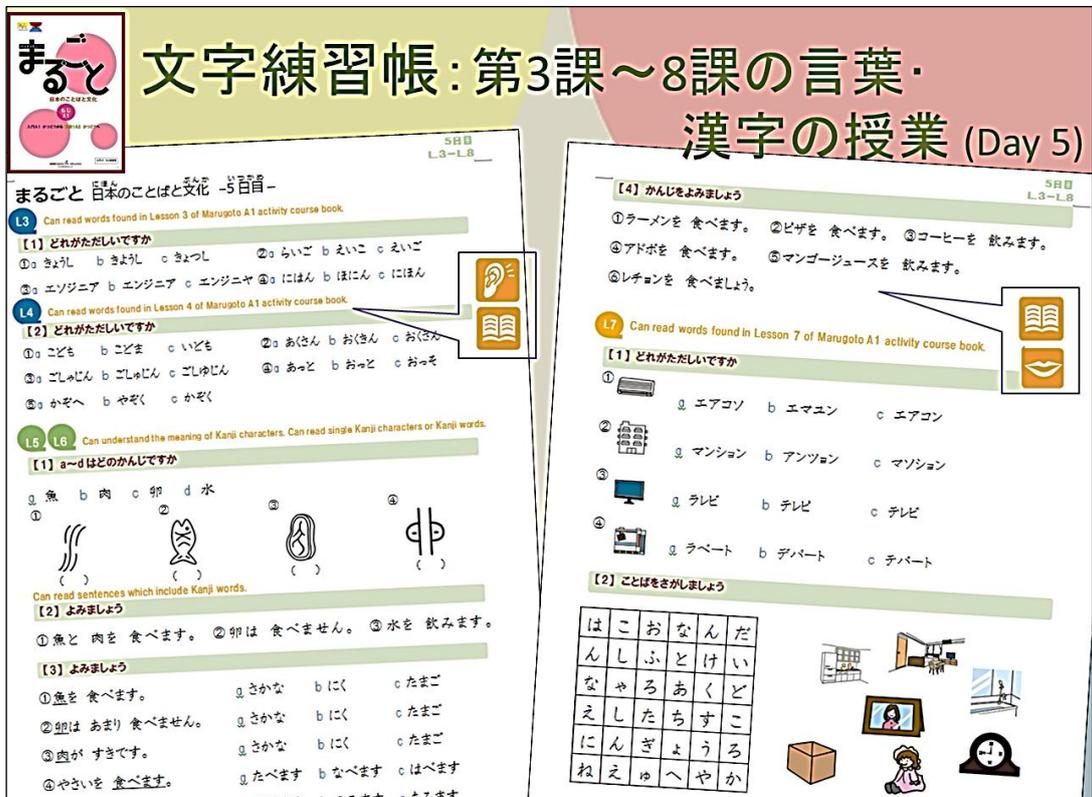


図3 文字練習帳 (5日目の内容の一部)

②漢字帳

『まるごと 入門』「かつどう」編に出た漢字のリスト。各漢字のよみ方、意味、例文、形を連想するためのイラスト（「まるごとプラス」国際交流基金関西国際センター）を付けて編集した。



図4 漢字帳の一部

(4)「文字コース」の3つの特徴

「文字コース」は以下の3つの特徴がある。

① 4技能の練習

「文字コース」の授業では、読み書きの学習だけではなく、聞き取り練習や発音練習を毎回取り入れた。『まるごと』の目標はコミュニケーションができるようになること - その一部は相手の言ったことが聞き取れることと考え、ディクテーションの小テストを毎回行い、聞き取り練習をした。答え合わせでは板書したことばをコーラスした。

また、コミュニケーションが達成されるためには、相手に分かるように話すことが重要であると考え、文字コースではあるが発音を重視した。他にはフラッシュカードを用いてのコーラス、教師の後についてリピート、個別の読み確認などの練習を行った。さらに、入門コースで勉強した表現の復習として、一人一人与えられたフラッシュカードのことばで短文作成も行った。

② 『まるごと』式:楽しい、気軽な学習

「文字コース」であっても、終始、席で書いたり読んだりする練習だけではなく、多様な関心を持た

せる練習を心がけた。ことばのフラッシュカードを見せ、入門コースで習った表現で文を作らせたり、教師のことばを聞き取り、それを白板に板書させたりした。また、早口ことばのようなリズムカルな文を読んで発音練習をしたり、チーム対抗ゲームやかるた遊び等をしたりして、文字とことばの学習が楽しい時間になるように工夫した。

ひらがな学習で使用する「Hiragana in 48 minutes」という教材での勉強は、楽しい気軽な勉強の一例として挙げられる。この教材は、イメージとストーリーを使った連想によって文字を導入するカードである。イメージやストーリーによっては、フィリピン人学習者にとって、文字が連想しにくい、文字に結びつかないものがあり、そのマイナスの印象が、かえってその文字を思い出すきっかけになるというユニークな意見が出るなど、楽しい意見交換の機会にもなった。例えば、「ね」のネット (Net)、「け」の樽 (Keg) の例では文字と絵が合っていないという意見が出たり、反対に、「ふ」の富士山などの絵については、大多数の学習者から連想しやすいという声があがった。

かるた遊びにも、チーム対抗ゲームにも、競争好きなフィリピン人の学習者は積極的に参加し、毎時間ゲームをしたいという声も多かった。特に、発音練習では、リズムのあるものを読ませると、頭を上げたり、下げたり、大げさな動きをしながら、体を使いながら一生懸命にコーラスして練習した。このように、読み書きだけの文字学習ではなく、聞き、話し、動くことで楽しく練習できるように工夫した。

もちろん、楽しい、気軽な授業でありながら、各授業の目標は Can-do 形式を取り入れ、学習者は Can-do チェックシートを使って、自己評価をしている。

③ ティーム・ティーチング：利点と各自の分担

ネイティブおよびノンネイティブ教師の組み合わせは、各教師の利点を生かした効果的な働きが期待できた。ノンネイティブ教師は外国語として日本語を学習した経験があり、自分自身がひらがなやカタカナを覚えることに苦労したというその経験が授業をするときの利点となる。具体的にはかなや漢字の導入時、学習者の助けとなる工夫をさせたり、似ている文字の区別や混乱しやすい文字の覚え方を効果的に導きだすことができる。

一方、ネイティブ教師は、読みやすくて形の整った文字が書けるという利点を有する。また、音読の練習においても、正しい発音を聞かせることができ、普段、多くのノンネイティブ教師が発音の基準として用いるオーディオを使用することなく授業を行うことができるという利点がある。

授業では、それぞれの利点を生かして、効果的な教え方ができるように、練習部分を分担した。JFM では、まるごとを教えるための教師用マニュアル（「Marugoto×Manila Manual」国際交流基金マニラ日本文化センター）を作成している。図5「授業の流れ1」では、日本人教師 (N) やフィリピン人教師 (F) が各自どの部分を担当するかを示している。また、図6「授業の流れ2」のように、2日目からは、日本人教師のディクテーションクイズで授業が始まる。その他、フラッシュカードを使用した文字の復習は基本的にフィリピン人教師が行い、文字の書き順や発音練習は、日本人教師が行うこととした。

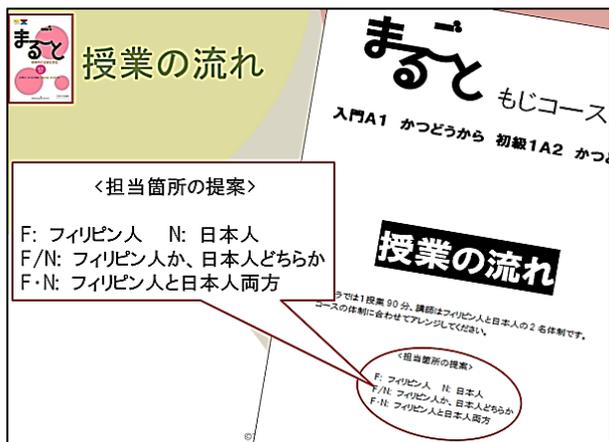


図5 授業の流れ 1

Day 1 クイズ (N) ①あお ②いえ ③うた ④すし ⑤かぞく
 できた人から板書→答え合わせ→全体で確認(間違っていたら正しい答えを書いてもらう)→全体で読む

時間	モデル	内容	メモ
5分	いっしょ(4)	あいさつ、宿題の確認	概く
15分	Day1 クイズ (N)	①あお ②いえ ③うた ④すし ⑤かぞく できた人から板書→答え合わせ→全体で確認(間違っていたら正しい答えを書いてもらう)→全体で読む	クイズ Day1
5分	ひらがな	今日の Can-do を確認 各種習の初にも Can-do を確認	
10分	はーぼ(5F)	①H48 で絵と影を覚える	HRASAHIA in 45 minutes
		②strokes を確認 「ま」と「も」の書き順 T: (板書)→S: (見ながら in the air) では、見てください、「は」は3ストロークです。1, 2, 3. 皆さん一緒に in the air. いいですか、はい! 1, 2, 3 1, 2, 3 P8に書いてください。 ③ハンドアウトを書く 「は」「ほ」まで練習返す	P.5 「は」は particle のとき 「ほ」は particle のとき と読みます。
5分	まーぼ(5F)	③「は」～「ぼ」まで H48 カードを順番に読む →random→裏(絵なし)	HRASAHIA in 45 minutes
5分	あーも	④「は」～「ぼ」まで H48 カードを順番に読む →random→裏(絵なし)	フラッシュカード(あーも)

(F) ④「は」～「ぼ」まで H48 カードを順番に読む →random→裏(絵なし)

図6 授業の流れ 2

2.3 実践の成果

終了時アンケートによると、入門修了者からは「初級1の教科書を自信を持って読めるようになった」、「文字の勉強が役に立った」という声が聞かれた。入門コースでインプットしたことばを、日本語の文字で読み書きし、確認できたことに対し学習者は高い満足度を示し、これからの日本語学習への自信につなげていった。『まるごと 入門』の語彙を一通り復習できる内容であるため『まるごと』講座に興味を持って「文字コース」から参加した新規の受講生をスムーズに初級1コースへと導くこともできた。

ティーム・ティーチングで授業に臨んだことで、一人が学習者と練習している間、裏で次の練習の準備を整えておく、また、遅れている学習者に付いて対応するなど、授業中もうまく連携し、教師側も

満足度の高い授業進行ができた。

本報告にある2012年のパイロットコースは1.5時間の授業を8回行い、合計12時間のコースとした。1日目から4日目はひらがなとカタカナを中心に学習し、5日目から7日目は『まるごと 入門』「かつどう」編のことばと漢字の勉強をして、最終日の8日目にテストと振り返り、そして修了式を行った。

パイロットコースを終えた反省として、13課から18課の漢字数が多く、7日目の時間が極端に足りないことがわかった。その問題を解決するために、次期の「文字コース」からは授業の回数を増やし、全10回、合計15時間のコースに変更した。

現在の「文字コース」は、担当教師は代わったが、基本的な内容は本報告と変わらず、報告者たちが作成した教材を用いて進めている。加えて楽しい文字学習のためのアイデアを出し合い、より楽しく気軽に学べるような教材が増えてきている。

3. これからの課題

「文字コース」の回数を8回から10回に増やし、より余裕を持った授業が展開できるようになった。それと同時に、以下のような新たな課題も明らかになった。

- ・カタカナや漢字の書き順はクラスで教えられていないが、それを教えてほしいという学習者の希望に対応するか
- ・限られた時間の中でもっと学習者同士がインタラクションできる活動をどのように取り入れていくか
- ・上のレベルの初級1コースと初級2コースの受講生の漢字コースの希望に応えるか

このような課題に対応しながら、今後もJFMでコース改善をしていきたい。

【参考資料】

文献

「まるごと 入門A1 もじ練習帳」

「まるごと 入門A1 漢字帳」

『まるごと 日本のことばと文化 A1 かつどう』（試用版）

『まるごと 日本のことばと文化 A1 りかい』（試用版）

『まるごと 日本のことばと文化 A1 ごい』（試用版）

サイト

「Marugoto×Manila Manual」（国際交流基金マニラ日本文化センター）

<http://www.jfmo.org.ph/marugoto-teaching-materials/view/659/newsid/901/for-teachers--can-teach-marugoto.html>

「まるごとプラス」（国際交流基金関西国際センター）<http://www.marugotoweb.jp/>